

教宣 せぶん

スト権行使

12日よりスト権を行使したたたかいが始まっています。指名された組合員が課所長にスト権を行使することを宣言し職場を離れ、要請行動を行なうわけですが、一部の組合員を除いて、ほとんどの組合員が初めての経験です。要請行動そのものは、休暇をとって行なっていた過去の行動と変わりがないわけですが、やはりスト権を行使しているという「重さ」は、おのずと行動にあらわれます。身が引き締まる思いがわいてきますし、少しでもこの時間をおろそかにしたくないという気持ちになります。会社に対する怒りも頂点に達します。もちろん、私たちはスト権を行使し要請行動をおこなっていることを、街頭で声を大にして訴えています。

9日の自主交渉打ち切り日の団交で、自主交渉を打ち切り、争議通告し、スト権を行使することを会社に伝えると、会社は驚いた表情を浮かべました。意外だという表情を見せました。私たちの要求に何ひとつ答えていないわけですから、当然予想していた私たちの「一手」だったはずなのに、その会社のパフォーマンスにわざとらしさ、しらじらしさを覚えました。そして会社は「法律にも認められた労働者の権利なので尊重するし、会社としてスト権行使中の顧客対応はしますが、顧客対応をした結果についてはみなさんも責任を感じてください」という発言をしました。要するに、「会社に顧客から連絡が入れば、みなさんがスト権を行使していて不在だということを言わざるを得ない。会社がそう言って、お客さんが皆さんから離れていっても会社の責任ではありませんよ」ということを言いたかったのです。「覚悟ができていますか？」ということをお問いたかったのでしょうか。驚いた表情、パフォーマンスがこれを言いたいがための演出だと思ったら合点がいきました。しかし、私たちは会社のその言葉に誰ひとりとして怯みませんでした。だれもその演出にのりませんでした。支部闘の全員が、会社の驚いた表情にただただしらじらしさだけを感じていました。

私たちはこのたたかいを積み重ねていくごとにたたかうエネルギーが増幅しています。それはこの会社の対応のあまりのお粗末さがカンフル剤になっています。経営としてのあまりの傲慢さが火に油を注いでいます。私たちのお客さんは、私たちがクビになるかもしれないたたかいに、スト権を行使してたたかっているからといって、決して私たちから離れていくようなお客さんではありません。私たちのお客さんは、私たちが土着の営業ができなくなるかもしれないたたかいに、スト権を行使してたたかっているからといって、決して私たちから離れていくようなお客さんではありません。長い年月をかけて築き上げてきた信頼関係とは、そんなもろいものではないのです。

スト権をかけて会社と働くものがたたかっていることを伝えようとしていないのはどちらでしょう？会社はスト権を行使して私たちが職場を離れた後、顧客対応も含めてストの痕跡を職場から消そうと躍起になっています。街頭でスト権を行使していることを堂々と訴えている私たちと、職場からストの痕跡を消そうとしている会社と、どちらが「スト」を伝えようとしているか、隠そうとしているかは一目瞭然です。私たちがスト権を行使したたたかいに打って出た意味、効果が充分あったという証左です。